

注) この RCT は日本東洋医学会 EBM 委員会がその質を保証したものではありません

## 15. 産前、産後の疾患

### 文献

多久島康司, 猪口博臣. 産褥管理におけるキュウ帰調血飲の有用性の検討—マレイン酸メチルエルゴメトリンとの比較 (第 1 報) —. *Progress in Medicine* 2001; 21: 1535-42. 医中誌 Web ID: 2002032923 [MOL](#), [MOL-Lib](#)

### 1. 目的

産褥管理におけるキュウ帰調血飲の有用性評価

### 2. 研究デザイン

準ランダム化比較試験 (quasi-RCT)

### 3. セッティング

実施場所に関する記載無し (著者の所属は町立大和総合病院産婦人科)

### 4. 参加者

妊娠 36 週以降の経膈分娩で 1000 ml を超える異常出血がない、産褥婦 47 名。キュウ帰調血飲群 23 名、マレイン酸メチルエルゴメトリン群 24 名

### 5. 介入

Arm 1: 太虎堂キュウ帰調血飲 (EK-230) 1 回 1 包 (2.0g) 1 日 3 回内服

Arm 2: メテナリン (0.125mg) 1 回 1 錠、1 日 3 回内服

### 6. 主なアウトカム評価項目

症状別改善度

産後 1 日目から 5 日目までの子宮体積、子宮底長、下腹部痛、乳汁分泌量を両群にて比較

副作用

副作用の症状について記載

### 7. 主な結果

統計解析は t 検定とカイ 2 乗検定、Wilcoxon signed rank test を用いて解析。

子宮体積、子宮底長は両群に有意差無し。

下腹部痛は産後 1 日目 ( $P<0.0028$ )、2 日目 ( $P<0.0005$ )、4 日目 ( $P<0.0232$ ) とキュウ帰調血飲群の方が有意に少ない。

乳汁分泌については、産後 3 日目 ( $P<0.0345$ )、4 日目 ( $P<0.0368$ )、5 日目 ( $P<0.0177$ ) で有意にキュウ帰調血飲群が多かった。

安全性については、メテナリン内服群で子宮収縮痛が強く、継続内服負荷症例を 2 名認めたが、キュウ帰調血飲群では副作用はなかった。

### 8. 結論

キュウ帰調血飲はマレイン酸メチルエルゴメトリンの代替薬になりうる。

### 9. 漢方的考察

なし

### 10. 論文中の安全性評価

マレイン酸メチルエルゴメトリン投与群では下腹部痛 (子宮収縮痛) が強く継続服用が困難と訴えた症例が 2 名あった。キュウ帰調血飲群での副作用はなかった。

### 11. Abstractor のコメント

マレイン酸メチルエルゴメトリンを産後ルーチンに使用することに対しては批判的な意見もあって、現時点では子宮復古不全などの症例をのぞき、産後の褥婦にルーチンで投与することは控えられてきている。副作用が少ないキュウ帰調血飲の効果について論じた本論文の意味は大きい。しかしながら、本論文中では乳児の吸啜刺激、乳房マッサージの子宮収縮効果、乳汁分泌促進効果についての評価はなく、キュウ帰調血飲内服がどの程度有効かについては、さらなる検討が期待される。

### 12. Abstractor and date

中田英之 2008.4.1, 2010.6.1, 2013.12.31